

平成21年度 伊丹市 2分の1成人式 発表児童と作文

順 番	学 校 名	氏 名
1	伊丹小学校	荒木 愛琳 <small>あらき めりん</small>
2	稲野小学校	栃尾 美月 <small>とちお みづき</small>
3	南 小学校	寺東 夏代 <small>てらとう なつよ</small>
4	神津小学校	長岡 実那 <small>ながおか みな</small>
5	緑丘小学校	長野 伸平 <small>ながの しんぺい</small>
6	桜台小学校	中村 真優 <small>なかむら まゆ</small>
7	天神川小学校	松尾 樹羅 <small>まつお じゅら</small>
8	笹原小学校	濱田 のりか <small>はまだ のりか</small>
9	瑞穂小学校	上野 ゆうひ <small>うえの ゆうひ</small>
10	有岡小学校	衣川 愛望 <small>きぬがわ あいみ</small>
11	花里小学校	多賀 千沙都 <small>たが ちさと</small>
12	昆陽里小学校	白石 雄暉 <small>しらいし ゆうき</small>
13	摂陽小学校	中野 菜 <small>なかの しおり</small>
14	鈴原小学校	本澤 ゆうか <small>ほんざわ ゆうか</small>
15	荻野小学校	長井 もも <small>ながい もも</small>
16	池尻小学校	黒木 あやか <small>くろき あやか</small>
17	鴻池小学校	井田 まり子 <small>いだ まりこ</small>

Hello,everyone.My name is Merin Araki.

I'm 4th grade in Itami elementary school.

I'm glad I can give a speach to you today.

私は英語が大好きです。そして面白いことも大好きです。ちょうど一年ぐらい前に、「英語落語」というものに出会いました。「英語落語」とは、日本に昔からある落語を私の大好きな英語で演じるものです。私は英語落語にとっても興味を持ち、ついに英語落語の先生に弟子入りしました。練習はきびしくて大変だけど、それ以上に英語落語が大好きなので、がんばろうという力がわいてきます。そんな楽しい毎日を私は送っていますが、外国にはそんな当たり前の毎日を送ることもできず、戦争や食料不足などで苦しんでいる子どもたちがたくさんいることを、テレビで知りました。特に、カンボジアという国では、地雷で手や足をなくした子どもたちがたくさんいることを知り、とてもショックを受けました。

私の将来の夢は、外国へ行って、英語落語をして、世界中の人に日本の笑いをとどけることです。いろんな国をまわって、世界中の人の笑顔を見てみたいです。みんなが笑って平和にさせる、そんな世界になるように、わたしも自分のできることをせいっぱいがんばっていこうと思っています。

そうやって夢に向かって、毎日がんばっていけるのも、大好きなお父さんやお母さんたちが、毎日わたしのことを応えんしてくれるおかげです。本当にありがとう。みんなと一緒に二分の一成人式をむかえられて、とても幸せです。これからもよろしくね。

Thank you for listening.

わたしのしょう来のゆめは、かいご福ししになることです。

まず高校を卒業して福しのせん門学校へ入って、たくさん勉強をしてしかくをとり、「かいご福しし」というしょく業につきたいです。

そしていっしょうけんめい働いてくいのない人生をおくるとというのが、わたしのゆめです。

もちろん結こんもしてしあわせな家庭をきずいて、この一つの命を大切にするために、できるだけやりたいことをして父、母に楽をさせてあげたいです。

なぜかいご福ししになりたいかというと、父のえいきょうです。わたしの父はかいご福しの仕事をしています。2年生のころ、父がわたしを働いている仕事場へつれて行ってくれました。そこはとてもなごやかな場所で、わたしが行くとみんなかんげいしてくれました。おじいさんおばあさんはわたしをまるで自分の孫のようにせっしてくれました。いっしょに話したり遊んだりしたあと、「ありがとう」と言われてとてもうれしかったです。みんな笑って楽しそうでした。

このころ、私はケーキ屋さんかパン屋さんになりたいとっていて、このしょく業にはあまりきょうみをもっていませんでした。しかし、そのとき、私はおとしよりといっしょにいることがすきなのだと気づいたのでかいご福ししになりたいという気持ちが強くなりました。

わたしがかいご福ししになったら、おじいさんおばあさんとお話しをしたり、車いすをおしてあげたり、ごはんを作って食べさせてあげたりといろんな事をしてあげたいです。そして、みんな幸せにらせればいいなと思っています。わたしも結こんして幸せにくらして、赤ちゃんを産んで自分の子どもにもすばらしいゆめを持ってもらいたいです。それには、まずこのしょく業につきたいなと思います。

このゆめがすべてかなうように、勉強をがんばっていきたいです。

私は、1999年12月20日に、兵庫県に生まれました。「夏代」という名前をさずかりました。私の家族は、お父さん、お母さん、お兄ちゃんの4人家族です。

お母さんは、とてもやさしくて、勉強がわからない時には教えてくれます。お父さんは、私にとってもあまくて、何でも買ってくれます。それに、お料理も上手なので、お父さんが作った物だったら、何でも食べられます。お兄ちゃんは、中学1年生でいそがしいと思いますが、いつも私にかまってくれます。お兄ちゃんと口げんかはよくするけれど、いつのまにか仲直りして、ふつうに話しかけてしまいます。とてもやさしいお兄ちゃんです。それは、私がまだおなかにいて、お母さんが入院しているときに、お兄ちゃんがタンポポをつんで、お見舞いに来てくれたからです。その話を聞いたとき、私はとてもうれしかったです。私が産まれてきたとき、みんな大喜びだったそうです。お母さんも私と初めて顔を合わせた時、とてもうれしかったと話してくれました。

私は、この家族に産まれてきて、本当によかったです。きっと、この家族の一員になるように命を与えられたんだと思います。

私は、大人になったら、グランドホステスか、ホテルの接客をする人になりたいです。なぜかというと、笑顔が大好きで、その笑顔が私の力になると思うからです。笑顔を見ると、やる気が出て、「がんばろう！！」という力がわいてきます。

私が大人になったら、人を大切にし、いつも笑顔で、みんなに親しまれる人間になりたいです。何事もあきらめず、最後までやってみせる！！という気持ちで、これから未来へとがんばっていきたいです。

支えてくれた人たちに、本当に感謝しています。これからは、私が人を支えられるようになってみなさんを元気にしたいです。

わたしは10年生きた中で、うれしい事も悲しい事もたくさんありました。いつも、大切な家族や友達がささえてくれました。その事で、人間はぜったいに一人では生きていけないことを知りました。

親友と大げんかをしたことがありました。二人とも悪いのです。いっしょに登校していたのですが、少しの間行かなくなりました。とてもむねがいたくて、あやまりたいという気持ちでいっぱいでした。次の日、親友は先に学校に来ていて、朝がおの水やりをしていました。少しドキドキします。ゆるしてくれなかったらどうしよう、そう思いました。

「きのうごめんな。」

わたしは正直にあやまりました。

「うん。」

ゆるしてくれました。こんなにすっきりできたのは初めてでした。「正直にあやまり。」と声をかけてくれたお母さんにととても感しゃしました。その後は、また一緒に学校に行き、いっぱい遊んだり出かけたりしています。やっぱり親友や友達は大切だなとあらためて教えてもらいました。だから、別の友達がけんかをした時、仲直りを手伝ったりしました。仲直りができた時の笑った顔が一番カワイイし、元気でした。

わたしは家族が多いです。おもしろくてやさしい母、大きくておこるとこわい父、悲しい時こまった時一番に相談できる二人の姉たち、まだ小さくていろいろめんどうを見てあげたりする三人の弟たち。時どきけんかするけど、一番たよりになるさい高の家族です。わたしは、家族や友達・先生などたくさんの人たちにささえてもらってきました。でも、わたしはそんな人たちにいっぱいめいわくをかけてきたと思います。これからは、周りの人たちの中でささえられたりささえたりしながら、人からたよりにされ、むねをはって生きていけるようにがんばります。

1999年5月2日に生まれて10年、今までの自分をふり返り、これからの自分を考えるのにふさわしい年齢がきました。

今日までぼくは、家族や先生、友だちや近所の人などいろいろな人に助けられ、たくさんのお話を教えてもらいました。その中で一番大切なことは、感謝の気持ちを持つことです。

一番感謝したいことは、両親がぼくを産み育ててくれたことです。お父さんはぼくが困っている時、必ずこう言います。

「なっ、伸平だいじょうぶや。」

そして、ぼくの頭をクシャクシャとなでてくれます。ぼくは少し恥ずかしいけれどすぐくほっとします。お母さんはいつもぼくの近くにいてくれます。ぼくはお母さんのにおいがないととても不安になるので、すっかり甘えんぼうになってしまいます。こんなぼくをいつもささえてくれるのがお兄ちゃんです。いつもケンカばかりしているけれど、気持ちのやさしい大好きなお兄ちゃんです。まずはぼくの家族にありがとう。

先生には勉強、友だちには遊びやケンカ、近所の人には助け合う心を学びました。どうもありがとうございます。

毎日ごはんを食べること、ねむること、学校に行くこと、笑うこと、泣くこと、おこなうことができるのは、全てあたりまえのことだと思っていたけれど、一人ではぜったいにできないことだと分かりました。

本当の成人式をむかえるまでにゆっくりと時間をかけて、自分のしたいことを見つきたいです。今大好きな音楽や絵に関係のあることをしているのか、まったくちがうことをしているのか、しょう来の自分が楽しみです。10年後のぼくは幸せですか。世の中のやくにたっていますか。大学生にはなれましたか。まったく見えない20才のぼく、感謝の気持ちだけはわすれずにいて下さい。

すごくささえてもらって、感謝しているのは、ぜったい家族です。お母さんは、私がこまっている時、泣いている時など、いつもいてくれてなやみを聞いてくれたり、

「どうしたの。何かあったの。」

とか

「泣いちゃだめだよ。」

とあったかい声で言ってくれて、それがうれしくて、すぐ笑顔にかわる時、私は、心の中でお母さんってすごいなと思います。お父さんは、家を明るくしてくれて、私が作ったご飯を

「おいしいよ。おいしい。」

と言ってくれ、作ったかいがあったなと思ってうれしくなります。お出かけとかいっぱい楽しい所につれていってくれたり、バドミントンで遊んでくれたりします。それがすごく楽しいです。

家族はみんな優しいので、心がゆたんぽみたいに温かくなります。お母さんは、ほめる時は、思いっきりほめてくれて、しかる時は、すごくこわいけど、そのおかげでけじめがついて、今では、自分にとってよかったなと思います。小さいころから、お母さんは優しく、私を大事にしてくれたり、守ったりしてくれました。お父さんは、私がこまっている時に、お母さんといっしょに相談をして自分の身になって考えてくれます。かい決した時、私の事を一番に思ってくれるお母さんとお父さんに感謝しています。

私の心の中にいつも笑っているお母さんがいます。いつも見守ってくれているように思えて、安心してどこにでも出かけられます。

私は、家族にいつもささえてもらって感謝しています。だから私にとって家族は、とても大事で、たから物です。今からは、私が家族をささえていけたらいいと思います。ありがとうと言われるように親孝行をしていきたいです。

わたしは、生まれた時に体温が低く、一日保育器に入っていました。それを見たお母さんとお父さんは、びっくりしたようですが、今では、かぜもなかなかひかないくらい元気になっています。それは、お母さんやお父さん、おじいちゃんやおばあちゃんのおかげだと思います。

ようち園に行く少し前に妹が生まれました。すると、みんなが、妹ばかりかわいがるように思えて、妹はいいなあと思っていました。けれど、一年生になってアルバムなどを見ていたら、

「わたしも妹みたいにかわいがられていたんだなあ。」とわかりました。

妹が大きくなり、妹とのけんかなどでよくおこられますが、それはしょう来のためだと今では思っています。わたしを育ててくれたみんなのことが大好きだし、とても感しゃしています。

しょう来のゆめを考えた時、その感しゃの気持ちを大切にしようと思い、人のためになったり、みんなが喜んでくれるような仕事をしたいと思うようになりました。

わたしのしょう来のゆめは、ディズニーランドのダンサーになることです。ダンスをしていると、とても楽しくて、見ている人がみんな笑顔になるからです。みんなの笑顔を見ていると、わたしもとてもうれしくなります。このゆめは、少しむずかしそうですが、あきらめずにがんばりたいです。

子どもが生まれたら子育てをがんばりたいです。その時は、お母さんやお父さんをお手本にして、しょう来のことを考えて、悪いことをしたらちゃんとしかれる親になりたいと思っています。

お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、わたしを育ててくれてありがとう。

私の「しょうらいの夢」は「救急救命医」です。なぜだろうと思ったのか、そのわけは、テレビでやっていた「救命病とう二十四時」という番組を見て、「すごいな。やってみたいな。」と思ったからです。でも、不安もありました。勉強を一生けん命しなないと成れないし、体力をつけておかないと、たおれてしまうかもしれない...、と思った時もありました。

けれど、父や母が「医者になりたいんやったらがんばり。おうえんしたるから。」とってくれました。それで、「じゃあ、がんばろう。」という気になり、がんばり始めました。

けれど、悲しい出来事もありました。

それは七十一才の祖母が亡くなったのです。原因は「大腸ガン」でした。私は祖母の死があまりにもショックで、泣いてしまいました。夢にまで祖母が出て来て、忘れられませんでした。でも私はその時に思いました。「おばあちゃんみたいに人を死なせたくない。」と思いました。祖母の病気は、手術しても、再発するかもしれない病気でしたが、それ以外で、助かる病気の人だって亡くなったりしています。でも、みんな、大切な「命」を持っているのだから、助けてあげるということは「とってもいいこと」だと思ったのです。それから、私は医学系の番組を見るようになったのです。

私が目標としているのは、脳外科医の「福島先生」です。この人は世界的に有名で、たくさんの人から、「助けてほしい。」という手紙やファックスが届きます。先生はそのために、「年中無休」だそうです。科はちがうけど、同じ医者の人として目標にしてがんばりたいです。そして、多くの人を助けてあげたいです。

僕は、背が低いです。なぜか分からなかったので、2年前に入院して調べました。脳のけんさや点てきをして気分が悪くなりました。とてもしんどかったです。

入院前から、となりにだれもいなくてひとりぼっちだったらどうしようと思いました。けれど、となりには5年生か6年生くらいのお兄さんがいて、ぼくが来ると喜んでくれたので、ほっとしました。そのお兄さんは、トランプなどでたくさん遊んでくれたので、すごくうれしかったです。また、病院のご飯はとてもおいしかったです。

しんどい点てきをしに行くとき、お兄さんが「がんばれよ。」と言ってくれました。すると、勇気がわいてきて、無事に点てきができました。

退院して、毎日注射をすることになりましたが、大切な体験だったと思います。

実は、ぼくは、たまごや牛乳アレルギーで、給食ではなく、毎日お弁当を食べています。幼稚園の年長の妹もアレルギーで、お母さんが、がんばってご飯やお弁当を作ってくれます。ぼくは、お母さんに心から感謝しています。「ありがとう。」

これまでぼくは、今までずっと家族やおばあちゃんたちに、自分の身の回りのことをたよっていたので、お手伝いができていません。

これからは、自分からお手伝いや勉強をちゃんとして、お母さんたちを楽にさせてあげたいと思います。

また、ぼくは、家でも学校でも集中して話があまり聞いていません。だから、お父さんやお母さん、先生に同じことを何度も言わせるので、よくおこられます。これからは、みんなの話をしっかり聞いて勉強し、おこられないようにがんばっていきたいと思います。そして、努力して将来は、自分の大好きなポケモンのようなアニメに関する仕事について、みんなをわくわくさせたいと思います。

私は、10才になって2分の1成人式をむかえて、これまでのことをふり返ってみました。

私は、父と母と姉の4人家族です。生まれてから10年、私は家族みんなと元気に笑顔で生活してきたことが、とても幸せです。

でも、父や母に怒られて、泣いてしまったこともあります。そんな時、母はいつも、「愛望のためにみんな言っているんだよ。」

と、やさしく言ってくれます。私のために言ってくれる家族がいることが、とても幸せなことだし、そんな家族が大好きです。

それから、私のもう一つの大切なものは、友達です。友達一人ひとりにやさしく接していけば、その友達からたくさんの輪が広がっていくと思います。困っている時に助け合い、なやんでいる時に相談し合える友達をこれからも大切にしていきたいです。私は今、家族や友達に「ありがとう。」と言いたいです。

そして、私の将来の夢は、パティシエになることです。私は、あまい物や和菓子が大好きなので、あまいおかしを作ってみたいと思いました。材料などをいろいろそろえるのは大変だと思いますが、自分で作ってみたいと思っています。

一番楽しみなのは、自分で考えながら作ったおかしを食べることです。そのおかしがおいしかったら、もっといっぱい作って、お店屋さんを開きたいです。

早く大人になって、いろいろやりたいと思っています。大人になったら夢も変わっているかもしれないですが、今の私の夢は大切にしていきたいと思っています。

これからいろいろな人に出会い、いろいろな経験をすると思います。10年後、私が二十歳になった時、やさしくて思いやりのある人になりたいです。そして、笑っている友達や、幸せいっぱいの家族と、元気に過ごしたいです。その時が、とても楽しみです。

予定より二週間早く、おなかを切って生まれてきた私は、目が大きくてとっても小さな赤ちゃんでした。生まれて六ヶ月ぐらいまでふくあつが弱く、うんちを自分で出せなくて、つねにきばっていたようです。いつも苦しそうにしている私を見て、お母さんは毎日おしりをめんぼうでしげきしたり、ミルクにオリゴとうを入れるなどをして、うんちを出すのに苦労したみたいです。一時は、おへそがプチトマト位の大きさにふくれて心配したそうです。私はお母さんにこんなに愛されているんだととてもうれしかったです。

小さい時は電車に乗ることが多く、学生の多い車両で愛想のよかった私は、人気者だったようで、お母さんは私をつれて歩くのがうれしかったそうです。また、引き出しやかごの中に入るのが大好きで、ちょっとお母さんが目をはなすと、せんとく物を入れるかごの中に入って喜んでいる子だったみたいです。アルバムを見てもいつも何かの中に入っていた私でした。

そんな私でしたが、今は私の中にゆめがいっぱい入っています。それは、パティシエ、エステシャン、おいしい料理を作るシェフ、薬ざいしです。パティシエは食べるのも見るのも好きで、エステシャンは自分も人もきれいにしたいからで、シェフは料理のお手伝いも大好きだからです。そして一番なってみたいのが薬ざいしです。お薬をもらう時におくの方の様子を見た時に、いろいろなこなを混ぜ合わせて薬を作っていて、その混ぜたりするのを「やってみたいなあー」と思ったからです。本で調べたら、すごく勉強しないと薬ざいしになれない事がわかりました。薬ざいしは病気の人に薬を作る仕事で、私はその病気の人に元気になってほしいなと思います。私はこれから勉強をがんばります。そして二十才になったらそのゆめをかなえたいなあと思います。私は二十才になるのが楽しみです。

ぼくの将来の夢は、プロ野球選手になることです。そして、ホームランを何百本も打ちたいと思っています。

ぼくがあこがれているのは、王貞治さんです。王選手が打ったホームランの数は、世界一です。その世界記録は、まだだれにもやぶられていません。だからぼくは、王選手のようなプロ野球選手になりたいと思うようになりました。

また、王選手が800号の記念ホームランを打った8月30日は、なんと、ぼくのたん生日と同じです。それでぼくは、ますます王選手が好きになりました。

ぼくは小さいころから野球が大好きで、休みの日にはお父さんと公園でキャッチボールをよくしました。学校でも、児童クラブの時などには、いつも野球をして遊んでいました。3年生になり、昆陽里タイガースという少年野球チームに入りました。1年生のころからずっと入りたいと思っていたので、やっと入ることができて、すごくうれしかったです。練習はしんどいこともありましたが、王選手のようにすごい選手になりたかったので、毎日がんばって練習しました。

ある日の試合で、ぼくはキャッチャーをして、とうるいをアウトにしました。それで、お父さんに、「すごいなあ。あれはすごく上手な人でもなかなかアウトにはできないで。よくアウトにしたなあ。」と、ほめられました。ぼくは、すごく気持ちがよかったです。だから、「もっといっぱいアウトをとって、もっと活やくしたい!」と思うようになりました。それからぼくは、練習をこれまで以上、一生けん命がんばるようになりました。

今、ぼくがこうして野球ができるのも、お父さんとお母さんがいてくれたからです。両親には、心から感謝しています。だからぼくは、これからもずっと、野球だけではなく、いろんなことを力いっぱいがんばりたいです。

私は、3歳ぐらいの小さいときからずっと、水泳を習いにスイミングスクールへ通っています。なぜ小さいときからずっと通っていたのかというと、多分お父さんがもともと水泳を習っていたからだと思います。

いつから水泳が好きになっているかは、よくわかりませんが、ずっとやっているから好きなんだと思います。

今、私はずっと水泳をやっていたおかげでカナヅチというほど水泳は下手ではありません。

ただ一つ、気になることがあります。お父さんは小学2年生から水泳をやっていて、選手コースに入れました。でも、私はずっとやっているに、選手コースにいけません。それに、私の知っている人の中に、小学1年生で、選手コースにいった人だっています。

だから、私がスイミングスクールをやめる前に、選手コースに入りたいと思っています。

しかし、今、なかなか自由形の50メートルタイムがちぢまらないので、級がストップしています。

私の通っているスイミングスクールでは、水泳のテストが1ヶ月に1回あります。でも、私は、週2回いっているので、1ヶ月にテストは2回あります。前に合格したのが、4ヶ月ぐらい前なので、ずいぶんたっています。でも、わたしは、合格したいです。

私が、スイミングに「行きたくない」と行ったとき、お父さんやお母さんに、「行かなかったら上手にならないよ」といわれたので、私は行きました。そして、うまくなりました。せっかくうまくなったので、私が選手コースに入りたいと思っています。

ここまでうまくなったのは、これまでやらせてくれたお父さんと、お母さんのおかげです。だから、わたしは、とても感しゃしています。

私のしょう来のゆめは、お医者さんになることです。

なぜかという、人の役に立てるお仕事がしたいからです。

私は、よくいろいろなお医者さんにいきます。お医者さんには、たくさん種類があるけれど、みんな病気やけがを治してくれます。私は、2才の時に斜視の手じゅつをしました。よく覚えていないけど、きっとすごく安心していたと思います。それは、やさしい先生だったからだと思います。

私は、幼稚園の先生や学校の先生にもなってみたいと思ったことがあります。でもそれも、人の役に立つことが共通していると私はすごく思います。

なぜ、こんなに、私は、人の役に立つことがしたいのかという、人の喜んでいるところや、「ありがとう」って言ってもらえるともものすごくうれしいからです。

私は、お父さん、お母さん、そして、双子の妹と弟といっしょにくらしています。

お父さん、お母さんは、おこったりもするけど、ほめてもくれる、私を支えてくれる人です。

双子の妹と弟は、去年生まれました。9才も年がはなれているので、私も妹と弟ができると聞いたとき、うれしい気持ちと、びっくりの気持ちでいっぱいでした。今は、もう1才になって、私が学校から帰ってくるとニコッと笑ってくれます。そうすると、すごく元気がわいてきます。

私は、そんな家族が大好きだし、感しゃしています。

この十年間は、幼稚園に入ったり小学校に入学したりいろんなことがあったなと思います。次に十年たったら、今度は、本当の成人式だし、次の十年どんなことがあるのがすごく楽しみです。

「ただいま！！」

学校から帰ると私はそう言います。すると、お母さんは必ず

「おかえり。」

と、答えてくれます。そして、冷たい牛乳をコップに入れて机の上に置いてくれます。

飲み終わると、私はランドセルから連絡帳を取り出して宿題をやります。

ある日、とても難しい計算問題が宿題でした。それを解くのが難しかったので、お母さんに、

「一問だけ教えて！」

と、言いました。お母さんはいつものように前に座ってゆっくり教えてくれました。

夜になって、お父さんが帰ってきます。お父さんのはじめの言葉も、やっぱり

「ただいま！」

です。お父さんが帰ってきた瞬間、みんなで声をそろえて

「おかえり！！」

と、大きな声で言います。絶対に小さな声では言いません。お父さんのことが大好きだからです。それから、お風呂はお父さんと一緒に入ります。お風呂に入りながら、おもしろい話をしたり、歌を歌ったり、相談にのってもらったりもします。相談事は、解決してくれるので、気持ちがすっきりします。

寝る時も絶対に

「おやすみ！」

と、大きな声で言います。

私の家では、“あいさつ”を大切にしています。なぜかというと、あいさつで気持ちが伝わるからです。それを教えてくれた、お父さんとお母さんにとても感謝しています。

それから、お母さんは、料理をしてくれます。大人になったら、お母さんのオムライ

スが作れるようになりたいです。

お父さんは、私たちのために仕事を頑張ってくれています。私も大人になったら、子どものために一生懸命頑張ろうと思います。

私の夢は、幼稚園の先生です。妹は幼稚園の年少で、私はよく幼稚園に行きます。妹の担任の先生を見ていると、忙しそうだけどやってみたい仕事だなと思ったのがきっかけです。幼稚園の先生になったら、『おはようボード』を作りたいと思います。子どもたちの顔写真をのせて出席確認をするものです。子どもたちに分かりやすい言葉で使い方を説明したいと思います。そして、お父さんやお母さんから教えてもらった“あいさつ”を子どもたちに伝えていきたいと思います。

私のこれまでの10年間をふりかえります。私を0才から10才まで育ててくれたお母さんに、とても感しゃしています。

私は、0才の時から夜泣きがひどくて大変だったのに、お母さんはおこらずに、いつもにこにこして私のめんどろをずっとみててくれました。1才か2才ごろにしゃべるようになって、いろんなことができるようになりました。私がなにか新しい言葉や物の名前を覚えると、お母さんはとてもほめてくれました。5才のころ、私が保育園でお母さんがむかえに来るのを待っていると、

「あやかー。むかえに来たよー。」

と、やさしい声で私のことをよんでくれました。そのころは、友だちもいっぱいできていました。私が言葉を覚えたのも友だちがいっぱいできたのも、全部お母さんのおかげです。私のためにいろんな事をしてくれたお母さん。とても感しゃしています。

7才のころ、私はとてもわがままでした。いつもお母さんに、

「あれ買ってーよー。これ買ってーよー。」

と、ねだっていました。お母さんは、ちゃんときびしくしかってくれました。私はそんなお母さんが大好きです。はじめて小学校に通う日、学校でいるものがとても多いのに、お母さんは全部買ってくれました。

そして、10才になった今、私はお母さんにたのまれた家の手伝いを、まだ素直にすぐできません。でも、これまで私を10年間育ててくれたお母さんなので、これから少しずつがんばりたいと思います。勉強を教えてくれた学校の先生、宿題を教えてくれるおばあちゃんお姉ちゃん、そして私をうんでくれたお母さん、みんなにとっても感しゃしています。

私が一番、感謝している人は、お父さんとお母さんと妹です。お父さんは、いつも私が大人になった時に上品な人になってほしいから、マナーを教えてくださいます。このごろは、昆陽池を走っています。どんなに苦しい事をしていてもお父さんがいるから何でも続けられます。

お母さんは、私が生まれてすぐに顔にアトピーができました。でもお母さんは、顔にぶつぶつがあってもとてもかわいがってくれました。お母さんは、私のはだがきれいになるように、毎日毎日、工夫して私のはだをきれいにしてくれました。例えば、野さいをみじんぎりにして、それをスープやごはんにまぜたり、あとは、くだものをジュースにしたりヨーグルトにまぜたりしてくれました。だから、10年後はだがつるつるになりました。お母さんは、私に愛情を注いでくれました。

妹は私がねむたい時や泣いているときに、「お姉ちゃんガンバレ！」とか「お姉ちゃん泣いたらダメ。」とか言って私をはげましてくれます。私は、そういうときになさけないなー。と思います。私がお母さんにおこられている時もほとんど私が悪いのに妹が「あい子が悪いねん。お姉ちゃんごめんな。」と言って自分のせいにしてかばってくれます。私は自分でずるいなーと思います。私が妹をなくさめてあげないとダメだと思っています。

私は、この家族が大好きです。今度は、家族が言ってくれたことやしてくれたことをわすれず大人になったら、子どもにしてあげようと思います。家族の前では言えないけど本当は心の中でありがとうといつも思っています。

あと私の事を心配してくれているおじいちゃん、おばあちゃんにも感謝しています。

最後にお母さん産んでくれてありがとう。